

研究・調査報告書

報告書番号	担当
438	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Associations between alcohol drinking and multiple risk factors for atherosclerosis in smokers and nonsmokers. 喫煙者と非喫煙者におけるアルコール摂取とアテローム性動脈硬化症の危険因子との関係	
執筆者	
Wakabayashi I.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Angiology. 2010 Jul;61(5):495-503.	
キーワード	
アルコール, アテローム性動脈硬化症, 循環器疾患, 多重危険因子, 喫煙	
要旨	
目的: 喫煙がアルコール摂取とアテローム性動脈硬化症の危険因子に及ぼす影響はまだ明らかになっていない。そこで、本研究では喫煙者と非喫煙者におけるアルコール摂取とアテローム性動脈硬化症の危険因子との関係を検討した。	
方法: 対象は 35-54 歳の男性 27,005 人とし、エタノール摂取量で非飲酒、極少量飲酒、少量飲酒、中等度飲酒、多量飲酒、極多量飲酒の 6 カテゴリーに分けた。動脈硬化の危険因子（肥満、高血圧、総コレステロール高値、中性脂肪高値、空腹時血糖高値、HDL コレステロール低値）を非喫煙者では 3 つ以上、喫煙者では 4 つ以上保有している者の割合と飲酒量の関係を比較した。また喫煙有無と飲酒量別に、動脈硬化の危険因子保有のオッズ比を比較した。	
結果: アルコール摂取量と動脈硬化の危険因子保有者の割合との関係は、喫煙者では U 型、非喫煙者では J 型を示した。動脈硬化危険因子保有のオッズ比は、喫煙者では、非飲酒者に対して極少量および少量、中等度、多量飲酒者が有意に低く、非喫煙者では、非飲酒者に対して少量および中等度飲酒者が有意に低かったが、極少量飲酒者と大量飲酒者は有意ではなかった。	
結論: アルコール摂取と動脈硬化の危険因子保有者の割合との関係は U 型または J 型であり、これらの関係は喫煙で調整されていることが示された。	